

20121110 東北食農研究会キックオフミーティング議事録

「仙台ミツバチプロジェクトと農業の入り口 ～仙台における都市農業の可能性～」

日 時：2012年11月10日（土）17:00-18:00

場 所：宮城県仙台市国分町「炉だん」

発表者：阿部高大さん（特定非営利活動法人仙台ミツバチプロジェクト理事長）

若生裕俊さん（NPO 法人仙台ミツバチプロジェクト副理事長）

参加者：参加者 13人（発表者除く）

（会社経営者、会社員、研究員、公務員、NPO法人理事長、社会保険労務士、
行政書士・司法書士など）

東北食農研究会の設立趣旨；

美味しいお食事をしながら、東北の食と農についてざっくばらんにカジュアルにお話しする研究会を仙台に立ち上げます。

食と農を専門としていないビジネスパーソンや経営者が自身を取り巻く食と農を考えるきっかけになればと考えています。

発表：

1. きっかけ

銀座ミツバチプロジェクトがビルの屋上にてミツバチを飼っていることを知りました。たいへん驚きました。

銀座でミツバチに触ったとき、とても暖かかった。ハチは怖いと思っていたが、そういうハチはスズメバチだった。ミツバチは人を襲わないのです。

盛岡の藤原養蜂場の藤原誠太さんに技術指導をお願いしました。銀座ミツバチプロジェクトにも技術指導も行っていただいています。

2. 仙台ミツバチプロジェクトのスタート

一昨年（2010年）の10月に仙台市青葉区一番町のビルの屋上にミツバチがやってきました。

大通りの「ケヤキ」と「ユリの木」が蜜源になっています。

ミツバチは飼い主を認識してくれます。飼い主を刺すことはめったにありません。

しかし、昨年（2011年）4月7日、大きな余震のときに巣箱がひっくり返っていたので、それを立て直しに行ったときには、真っ暗だったので刺されてしまった。

3. セイヨウミツバチとニホンミツバチの性質の違い

セイヨウミツバチとニホンミツバチをビルの屋上で一緒に飼っています。初めはセイヨウミツバチとニホンミツバチとで戦争をしていました。

いまでは、セイヨウミツバチとニホンミツバチとが共生をしています。合わせて8群にまでなりました。約30万匹にまで増えました。

4. 「パレ・ド・オール」という東京の洋菓子店（サエグサ氏）で仙台のハチミツが使用されたバレンタインのチョコに仙台のハチミツが使われました。仙台市の百貨店「藤崎」や「ウェスティン・ホテル」にて少しだけ販売されました。
とはいえ、一般に販売するほどの量はまだ取れていません。

5. 仙台ミツバチプロジェクトのハチミツは美味しいので欲しいという方が増える。20人ぐ
らいのサポート会員（会費をいただいています）にはミツバチをお分けするようにしていま
す
一番町の近所の方々の反応ですが、初めは怖がっていた方もいましたが、いまはミツバチがい
ることを忘れているようです。
いまでは、学生がミツバチを見学に来るようになりました。これがPRにもなっています。

6. ビルの屋上は養蜂の条件に合っていました
隣のビルのおかげで風が防げるようになっていました。
なお、ビルの屋上は7階部分に当たります。

7. 今後の展開
東北の食と農の発信の一助になればと考えています。
とはいえ、まだまだハチミツの量が多くはありません。ですので、販売は「ウェスティン・ホ
テル」などの近場から行っていきます。

8. まとめ
生き物がいつでも触れるところにいるというのは精神的な癒しにもなります。
とにかく、好奇心が大切です。

以上